



ふれあい

[学校の様子→](#)

学校評価アンケートの結果

学校評価アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。アンケートの結果については、質問項目に対して「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」の割合を掲載いたしました。ご意見等も含め、今後の学校運営の参考にさせていただきます。

【学校全般に関すること】（低：低学年／高：高学年）

質問項目（一部抜粋）	児童	保護者	地域
安心・安全な学校だと思う。	高71%	79%	97%
学校行事は楽しい。（成長につながる。）	高77%	85%	—
学校だよりやHPなどで学校の様子がよく分かる。	—	72%	88%

（ご意見）一部抜粋、要約

- 岡田小は以前からコミュニティに協力的な関係を保っており、連携が図られているため、地域からも見守られた安心・安全な学校だと感じます。
- 熱中症が心配される猛暑日は、体育の授業を控えていて、よい判断だったと思います。
- 横断歩道などでちゃんとボランティアの人や先生が見守ってくれていて安心しています。
- ▲学校施設に簡単に立ち入れるのが心配です。不審者訓練などもしてほしいです。
- ▲登下校において、校区の交通事情が変わり、車の往来が激しくなりました。また、大型車両も増え、信号無視の車も気になります。信号が青に変わって横断する際、一旦止まって左右確認をするなど徹底させたいです。また、歩行者信号だけでなく車両信号も付けてほしいです。

・岡田地区の交通の事情は、大きく変化しています。本校正門の通りにおいても、登校時間帯は自動車の往来が多く、道幅も狭いため、子どもの接触事故の心配が尽きません。危険箇所の安全対策につきましては、今後も、市の土木課、防災危機管理課、学校教育課、知多警察署に訴えていきたいと思います。また、子どもが交通ルールを守っていても事故に遭うケースが報道されます。子どもには、周囲の安全を確認して行動するなど、自分の命は自分で守ることの大切さを伝えてまいります。不審者への対応、熱中症への対応については、校内体制で取り組んでまいります。



- 学校行事は仲間を思いやる力や自分たちで考えて行動する力を育てるとともに、子どもたちの思い出にもなり、お忙しい中で準備等をしてくださる先生方に感謝しております。
- 全学年合同の運動会に変更され、他学年の活躍を見ることができ、子どもにも刺激になったようです。
- 学校行事で野外教育活動の様子を、ホームページにアップしてくれたので様子が分かって嬉しかったし安心できました。

- ▲運動会は紅白に分けて競わせると、自分の学年以外のクラスをもっと応援すると思うし、盛り上がると思います。みんなが楽しめるよう、やり方を少し見直してほしいです。
- ▲ホームページの更新が少なく、見にくいです。毎日楽しみに見ていましたので、もう少し更新頻度を上げて、子どもの様子が見られるようにしてほしいです。
- ▲保護者参加の学校行事の日程を、早く知らせてほしいです。また、授業参観は、クラスの雰囲気を見て、子どもと会話したいので、普段の様子や雰囲気が感じられる授業参観がよいです。

・今年度、オカリニンピックを全校開催にすることで、多くの保護者・地域の皆様より肯定的なご意見をいただきました。その一方で、内容に関しては、騎馬戦や組み体操は盛り上がるのではないかといったご意見もいただきました。しかし、これらの競技で大きな事故があり、国からも安全に配慮した内容を検討するよう指導があり、現在、行われていないのが現状です。本校では、全校開催にするため、限られた授業時数の中で練習時間を生み出し、子どもの安全を配慮した内容を検討いたしました。しかしながら、勝った喜び、負けた悔しさを味わわせるという点では、目的を達成するまでには至らなかったと感じています。次年度に向けて、内容を検討してまいります。

・学校だよりやホームページ等で学校の様子を十分発信できなかつたと感じております。特に、ホームページについては、教員の盗撮による不祥事が報道され、個人情報の扱いについては、より配慮が求められるようになりました。市外では、ホームページにアクセスする際のパスワードを設けたり、子どもの顔にモザイクをかけてホームページに掲載したりする学校もあります。本校においても、ホームページへの掲載を断る児童・保護者や教職員もあり、日々掲載の難しさを感じております。今後のホームページについては、個人情報を配慮しつつ、見やすいものを検討してまいります。また、学校行事の日程につきましても、早めの通知を心がけたいと思います。



【児童に関するこ】(低:低学年／高:高学年)

質問項目 (一部抜粋)	児童	保護者	地域
自分から挨拶している。(挨拶ができる。)	高65%	82%	88%
自分にはよいところがある。(自信をもっている。)	低79% 高64%	82%	—
自分を大切にしている。	高78%	79%	—
相手のことを思いやって行動している。	高84%	85%	—
自分の暮らす街を大切に思う。(ルールやマナーを守っている。)	低99% 高85%	—	85%
ふだんの生活の中で幸せな気持ちになることがある。	低89% 高84%	—	—

(ご意見) 一部抜粋、要約

- しっかりと挨拶ができていて素晴らしいです。
- 隣人に自分から挨拶しているところを見かけ、挨拶ができていて嬉しく思いました。
- 学校で褒められた話や嬉しかった話をしてくれたら、親も一緒に喜んで褒めています。

○帰宅後、学校での出来事や悩んだことなどを素直に話してくれます。また、連絡ノートでは、担任の先生の思いが綴られており、家族で共有しています。

▲道ですれ違った時、以前はよく挨拶してくれたが、最近は挨拶どころか逃げていく子もいます。知らない人には近づくなという指導かもしれません、寂しい思いがしました。

▲もう少し地域とのかかわりがほしいです。

・子どもの健やかな成長のためには、学校・家庭・地域の連携が必要不可欠であると考えます。

今後も対話を大切にしながら、子どもが通いたい学校とは何か、保護者が通わせたい学校とは何かを追求してまいります。

・挨拶が「できている」という意見と「できていない」という意見をいただきました。本校の4つの願い（あいさつ・返事・はきものそろえ・ありがとう）は、当たり前にできるよう意識的・継続的に指導してまいります。

・子どもたちの地域行事への参加が年々減っていると聞きます。地域に愛着と誇りがもてるよう、地域素材を活用した学習活動や地域の教育力を活用した授業を検討してまいります。また、地域行事への参加について、助けられる側から「助ける側」へと意識が向いていもいる子どもたちもいるので、積極的に地域行事へのボランティア参加を促してまいります。



【学習に関するこころ】(低:低学年／高:高学年)

質問項目（一部抜粋）	児童	保護者	地域
授業は分かりやすい。(理解している。)	高65%	74%	—
タブレット端末などは勉強の役に立つ。	低94% 高75%	78%	—
課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。	低78% 高64%	—	—
自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	低68% 高58%	—	—

(ご意見) 一部抜粋、要約

▲タブレット端末での学習は、日本よりずいぶん先にデジタル化を進めてきた教育先進国での成績低下や心身の不調が顕在化していることから、よいとは思えません。宿題や教科書もタブレット端末を使用していて、ゲームのような学習法もあるので、デジタル依存してしまいそうで心配になります。

▲タブレット端末での学習は子どもが進んで行っており、よいのですが、1年生には重すぎて通学が大変そうです。ランドセルが重すぎて、学校に行くのを嫌そうにしている時があります。

▲タブレット端末をうまく使えば、学習が深められると思いますが、家では学習と関係ないものを視聴するなど勝手に使っているので、注意するのが大変です。小学生に管理させるのは難しいと思うので、規制をかけてほしいです。

▲字を書くことが少なくなり、授業や問題を理解していても、言葉足らずや伝え方不足などがあるかもしれません。字が汚く、漢字の書き順や読み書きの力がついていません。

▲書く学習の方がよいと思います。連絡帳も全部タブレット端末で、自分で持ち物の確認もちゃんとしないので、連絡帳は自分で書いてほしいです。

▲タブレット端末は便利な道具ですが、書く・まとめるといった紙面に表現する力が基礎にあっての便利さかと思います。今年度、ノートや鉛筆を買い足していないことが心配です。

- ・アンケート結果では、約8割の子どもが、タブレット端末などのコンピュータを使うのは、勉強の役に立つと思うと回答しています。その一方で、子どもの学力低下が問題視されています。全国学力・学習状況調査では、書いてまとめる力や読解力が不足しているという結果が出ています。子どもが問題文を読んで、何が問われているかを理解したり、学んだことを簡潔に書いてまとめたりすることが苦手です。本校では、まず学習の基礎となる「読み・書き・計算」の定着をめざすことで、思考・判断・表現力等も高まると考えますので、タブレット端末に頼りすぎず、書いてまとめる力や読解力につながる基礎基本の学習を大切にしてまいります。
- ・本校では、教科書やノートなどの勉強用具は自宅に持ち帰らず、「置き勉」を推奨しています。今後も子どもの発達等を考慮して、登下校が負担にならないようにしてまいります。



【その他】(ご意見)一部抜粋、要約

- 学校の支援については、私たちにとって大満足です。
- 子どもは担任の先生を信頼していて、毎日、楽しく学校に通っています。安心して過ごせているのがとてもよく分かります。
- 先生方やお友達が、あまり出席できない我が子に、いつも声かけをしてくださって嬉しい限りです。
- ▲先生の指導に差があったり、子どもの心理的安全性が保たれていなかつたりすると感じる場面がありました。平等に接していただきたいです。
- ▲インフルエンザやコロナが各学年でどの程度、流行っているのか分かるとありがたいです。

- ・子どもに対する指導や支援を考える際、配慮を必要とする子どもに対して、柔軟に対応しています。最近は、「H S C」（Highly Sensitive Child）と言って、周囲の環境から人一倍、刺激を受けるため、とても疲れやすい等、周囲に敏感な子どもがいます。年度始めに「岡田小の生活のきまり」を全職員で確認していますが、何のためのきまりなのかを捉え直し、学校の教育活動に「必要か、必要でないか」、「安心・安全か」の視点で検討し直したいと思います。
- ・学校に登校できない子、登校をしぶる子の割合が、小学校でも年々増加しており、低年齢化しています。本校では、そんな子どもたちのために、登校支援室として「校内教育支援センター」を2学期に設置しました。そこでは、教室復帰を目標とするのではなく、子どもの実態に応じて柔軟に対応しながら、まず心のエネルギーを蓄えることを目的として活動をしています。その一方で、運用面でさまざまな課題が見えてきたので、今後は、学校全体のバランスを考えながら、教職員を配置したり、枠を決めて運用したりするつもりです。
- ・子どもの心理的安全性が担保されるよう、今後も「褒める・受け止める・決めさせる・待つ姿勢」を大切にして、子どもと関わってまいります。
- ・感染症の流行や注意喚起については、保健だよりやホームページ等で発信していきます。



(校長 小鳩 正嗣)